

# 永森直人後援会からのお知らせ

## 講演会&パネルディスカッションを開催しました！

去る6月30日(土)に龍馬プロジェクト会長神谷宗幣氏(大阪府吹田市議会議員)を迎えての基調講演、そして金沢市議会議員高岩勝人氏をコーディネーターに迎え、富山県議会議員の山本徹議員、武田慎一議員、田畑裕明議員に永森直人議員が加わってのパネルディスカッションを行い、今後の富山県政について熱く語り合いました。



### －今後の後援会活動の予定－

- 平成24年10月13日(土) 第1回永森直人後援会パークゴルフ大会 (於：下村パークゴルフ場)
- 平成25年2月9日(土) 永森直人後援会新春懇談会

### 後援会費に対するご賛同のお願い

永森直人後援会では、永森直人県議の活動・活躍をこれまで以上に支援するため、物心両面で一層充実した後援会活動を展開していきたいと考えております。

つきましては、役員会で後援会費について下記のとおり決めましたので、ご賛同いただける方は、永森直人後援会事務局までお知らせ願います。

- 1 後援会費 年額 1口 10,000円 (150口まで)
- 2 振込先 北陸銀行 小杉支店 普通 No. 6010593 「永森直人後援会」  
富山信用金庫 射水営業部 No. 0182109 「永森直人後援会」

富山県議会議員

永森直人 (ながもりなおと)

略歴

- 昭和50年1月20日生まれ
- 東京都立大(現 首都大学東京) 卒
- 平成9年 富山県庁入庁
- 平成22年 富山県庁退職
- 平成23年 富山県議会議員選挙で初当選

皆さんからのご意見、アイデア、ご要望をお待ちしています。



## 永森直人事務所

住所：〒939-0306 射水市手崎363-1  
電話：0766-55-3533 FAX：0766-55-3577  
E-mail：nagamori-naoto@vivid.ocn.ne.jp

# 永森直人県議会通信



発行：富山県議会無所属クラブ 代表永森直人  
〒939-0306 射水市手崎363-1  
TEL 0766-55-3533 FAX0766-55-3577  
E-mail:nagamori-naoto@vivid.ocn.ne.jp



## ご挨拶

今年も、大変暑い日が続き、多くの熱中症患者が出ているほか、7月の九州北部を中心とした記録的な豪雨においては、多くの死者が出るなど自然が猛威をふるう厳しい夏となりました。県内においても、高岡市、射水市などで大雨による浸水被害や土砂災害などの被害が出ております。被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。

東日本大震災以降、地震、津波に対する様々な防災対策が各地で一様に行われてきました。しかし地震が少ないと言われる本県においては、こうしたゲリラ豪雨の発生確率の方がはるかに高いわけでありました。今回の九州北部等の被害状況を分析するとともに、県民の生命、財産を守るために、本県の環境に合わせた防災対策というものを冷静に見つめ直さなければいけないと感じた出来事でありました。

さて、富山県議会平成24年6月定例会が終わりました。私は、一般質問に登壇させていただき、エネルギー問題、並行在来線問題、そして子育て環境の充実について質問をさせていただきました(主な質問内容は3ページに掲載)。議会全体を通じて、原発再稼働問題や自然エネルギーの推進といった電力エネルギーに関する議論が多かったように思います。電力エネルギーの確保は、戦前、戦後、そして高度経済成長の各時代において国の明暗を左右する国家プロジェクトでありましたので、ど

うしても国が考える問題という意識が地方自治体には依然として強いように思います。日本社会が成熟しつつある中で、また地方が多様化する中で、電力供給体制についても、地方において活発な議論があっべきであると思っております。特に原子力発電については議論の分かれるところではありますが、少なくとも、本県を含む北陸電力管内においては、当面、原子力発電のない状態が続きます。電力需給上の問題はないか、また電気料金への影響や地域産業への影響はどうかなどを冷静に見極めながら、地域実情にあった判断を地方自治体が行っていき必要があります。

国政は、いよいよ不透明さが増し、原発再稼働、米軍のオスプレイの搬入問題を見るにつけても、決定の中身の良し悪しは別として、その決定プロセスにおいては大変な危うさを感じざるを得ません。まさに中央集権的な政治の統治システムが瓦解をし始めております。

引き続き、皆様方のご理解のもと、国に代わり自分たちの地域を自分たちで守る責任と気概を持ち、事に当たっていく覚悟でありますので、ご指導、ご支援をよろしく願いたします。





# トピックス

## 津波シミュレーション調査結果

東日本大震災を踏まえ、県が調査をしていた津波シミュレーション調査結果がまとまりました。

### 【射水市の場合】

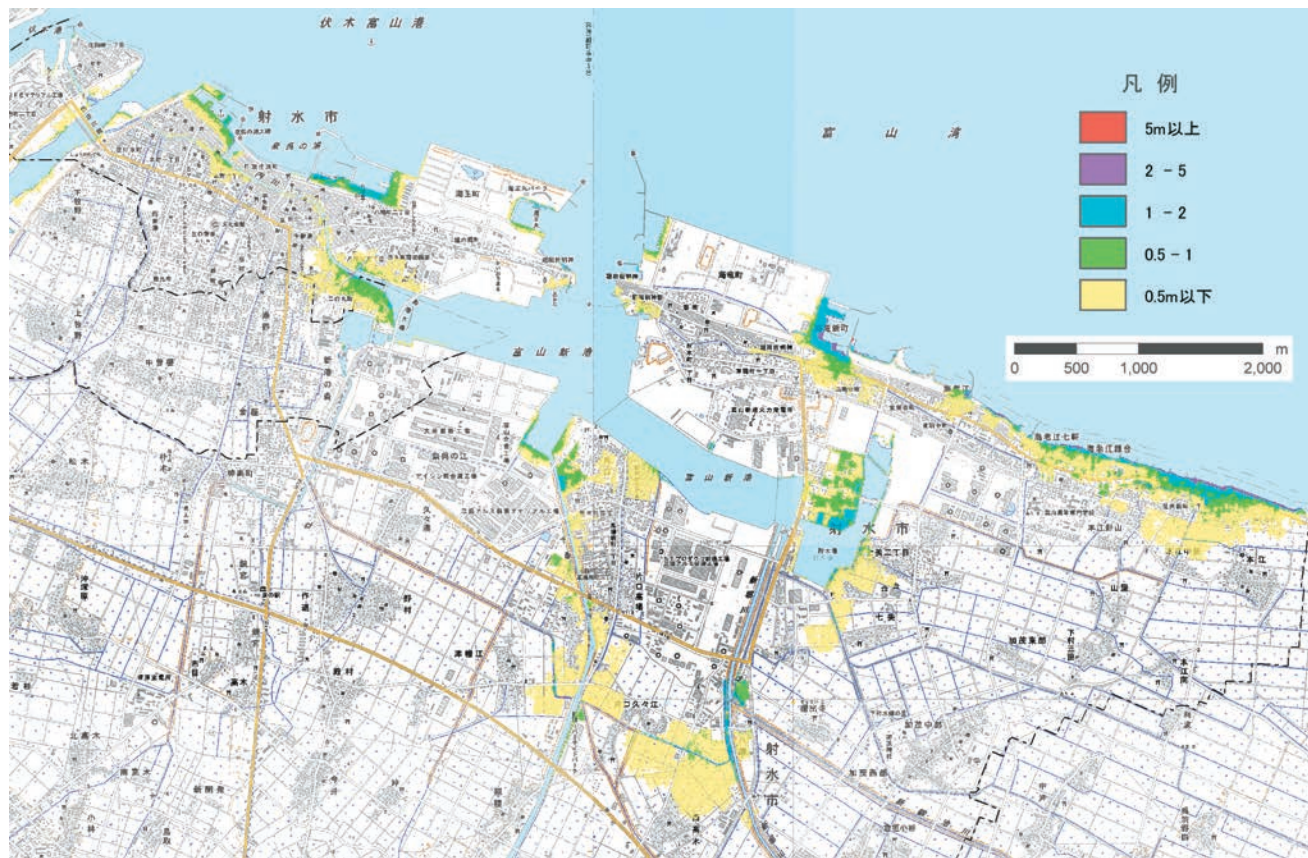
	呉羽断層帯の地震 (地震規模 M7.4)
津波高	0.8~3.1m
最大津波高到達時間	1分
浸水域面積 (堤防等が破壊された場合)	3.2km <sup>2</sup>
全壊木造建物 (堤防等が破壊された場合)	120棟
死者数 (堤防等が破壊された場合)	21名

### 【過去に富山県に来襲した津波】

発生年	地震の名称	地震規模	津波の記録
1833年	山形県沖地震	M7.8	氷見 1~2m
1964年	新潟地震	M7.5	魚津 38cm、富山48cm、伏木 61cm
1983年	日本海中部地震	M7.7	新湊市 34cm、氷見市72cmほか
1993年	北海道南西沖地震	M7.8	富山新港22cmほか

出典:東京大学出版会「日本被害津波総覧」(684年~1996年に発生した津波を整理したもの)

### 【浸水想定マップ】



## 平成24年6月議会において一般質問に登壇しました。



### テーマ1 「並行在来線とまちづくり」

**問1** 並行在来線の新駅の設置について、各市で活発な議論が行われているが、現在、設置が難しいとされている地域においても、一定の住宅開発が進むなどして採算性が見込めると判断されれば、新駅設置は認められるのか？

**(知事政策局長)** 県が実施した新駅設置可能性調査の結果を各市町村に提供した。今後、各市町村において、独自に調査や新駅設置の議論を進めてもらいたいと考えている。議論の結果、乗車人員が大幅に上乗せされるような具体的なプランと合わせて提案があれば、3セク会社、地元市、県など関係者で検討を進めていくことになる。

**問2** 射水市内において新駅設置の動きがある場所は、都市計画道路「七美太閤山線」と北陸本線が交差する地域である。「七美太閤山線」の全線開通が、新駅の設置や周辺開発に与える影響は大きい、「七美太閤山線」の整備見通しを示せ。

**(土木部長)** まずは、県道富山高岡線(旧8号線)までの部分供用を図る予定である。今年度は、北陸本線の北側について旧8号線までの区間の工事を完了する。また北陸本線の南側についても今年度に着手し、26年度までに完了する予定である。ただし、北陸本線の真上については、鉄道事業者であるJRに委託し工事を行うため、この部分については現在調整中である。

また、全線開通については、旧8号線の北側区間において一部地権者の理解が得られていないなどの事情もあるが、地元市のご理解、ご協力を得ながら、早期開通を目指したい。

**問3** 北陸本線がJRから経営分離され第三セクターによる運営となった場合、現在JRではなく射水市が管理運営している「小杉駅南口」の取り扱いはどうなるのか？

**(知事政策局長)** 駅の利用実態や第三セクターの収支に与える影響、現在の管理体制に至った経緯を考慮しながら、地元市と今後調整しながら検討を進める。



### テーマ2 「学童保育の問題について」

**問1** 就学前の児童を預ける「保育園」と就学後の児童を預ける「学童保育」では、サービス面で差があり、子供が保育園から小学校に上がると、仕事と子育ての両立が困難になるケースもある。

学童保育の開設時間の延長や土曜保育の実施などサービスの充実を行う必要があると考えるがどうか？

**(厚生部長)** 時間延長や土曜保育の実施のためには、指導員確保などの課題がある。県としても、開所時間を延長する場合に独自の助成制度を設けるなどして開所時間の延長に取り組んでおり、この結果、6時以降開所する学童保育は48か所、土曜開所は155か所と年々増加している。今後とも、積極的に市町村を支援し、学童保育環境の充実に努める。